

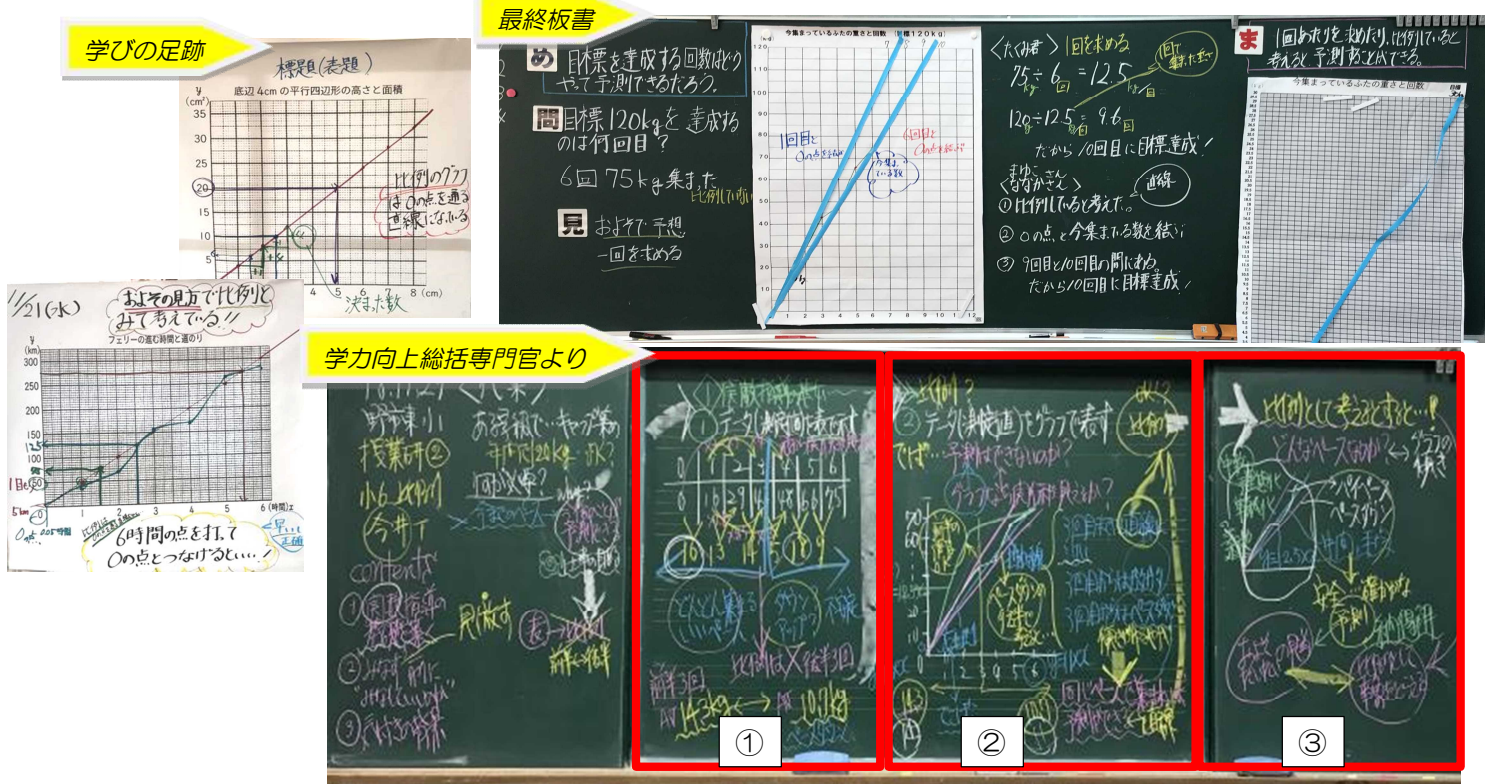
第4回

授業づくり講座 授業研究会

香南市立野市東小学校

第6学年 「比例と反比例」授業者 今井 悠介 教諭

異種と同種の二量の割合を融合して教えてもいいのか?という前回の指導・助言を基に教材を変更し、異種の二量で授業を行った。教材は、社会科の授業の一環として始めたペットボトルのキャップを回収する取組と関連付けるものとし、比例の性質を用いることで、能率よく未来を予測し、日常生活に生かすことができるようにすることをねらいとした。



- (1) 仕事の目的を明確にする  
 比例関係にあるかどうかを調べることで、目標を達成する回数が予測できるといったゴールイメージを明確にし、授業展開していく。
- (2) 関数指導の基礎を築く
- ①データ(測定値)を表で表す。
    - ・その表から何が見えるのかを問う。
  - ②データ(測定値)をグラフで表す。
    - ・「表では見えなかった関係がグラフで表すと見えるかもしれない」という、数学としての思考のプロセスを準備することが大切である。
    - ・本時は納得解でよい。(収集量のペースダウン等もあるが、このまま同じペースで集まれば、120 kg集まるまでの回数が予測できる。)
  - ③比例として考えた場合、点と点のどこを結びとよいかを問う。
    - ・データから見えてくるプロセスの中で比例定数の 12.5 を見いだしていくことが大切である。
- \*新学習指導要領で、領域が「数量関係」から「変化と関係」に変わった。つまり、二量の関係がどのようになっているのかを掘り下げて考えることが求められる。本時は、中学校の「比例とみなす」授業の素地となる。

◆参観者より

- 簡単にグラフからほぼ比例と見ることができないのではないかと浅い見取りで授業を組み立ててしまった自分がいました。後で考えると、比例でないものを比例の関係にあるとみることが子供にとってはとても難しいことだと感じ、そこへたどり着くためには大変な試行錯誤が必要だということが分かりました。(小学校教諭)
- 「小学校と中学校との繋がり、教材について考えるよい機会となりました。小学校の学びの上に中学校で何を積み重ねるのかをしっかりと考えていきたいと思えます。(中学校教諭)
- 小学校で「比例として考える」という実践をされていて中学校として焦りを感じました。データを活用して、比例と見なすことの基礎・基本を学ぶことができました。(中学校教諭)

平成 31 年 1 月 31 日 (木): 舟入小学校 4 年生「面や辺の平行・垂直」の授業研究会が行われます。齊藤一弥学力向上総括専門官による実演授業もありますので、ぜひご参加ください。今年度の授業づくり講座最終となります。